

国語 第3学年 つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう」 教材名 「仕事のくふう、見つけたよ / 【コラム】符号など」

2 単元の目標

改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。〔知識及び技能〕
(1)ウ)

相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。この教材では、工夫の材料分類表と報告文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。想定する難しさは、集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～5時：○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第6～9時（本時）：○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第10時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（6／10）

（1）本時の目標

相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」

【めあて】調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。

予想される児童の反応：・同じ仕事でも工夫の目的が違う。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」

学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・同じ仕事でも工夫の目的が違う。

・自分の予想を調べた事実と分けたい。

指導上の留意点：資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。

想定する難しさ：集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。

評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

工夫の材料分類表と報告文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・自分の予想を調べた事実と分けたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」。中央は、工夫の材料分類表と報告文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

